

国際協力人材育成プログラム

# ソリューション・アプローチ

英語で学ぶ

強制移転・移住 (2年次生以上)

移民や難民の問題を理解し  
その解決策を考える

## 集中講座



担当教員：佐藤滋之

場所 / 時間

授業日程

オンライン

6月

4, 11, 18, 25

火曜日 5限

7月

2, 9

対面集中

8月

1, 2

池袋キャンパス

9時~17時

じっくり  
学べます!

現実の難民や移民の姿を知る

グループワーク・ディスカッション

現場を知るゲストスピーカーから直接話を聞ける

# 担当教員より、みなさんへ

**この授業は**「ソリューション・アプローチ（強制移転・移住）」という名前がついていますが、簡単に言えば、移民や難民の問題を理解し、その解決策を考えることを目的としています。ウクライナでの戦火によって多くの人々が国外に逃れ、その一部は日本にきています。この人々のように戦火や迫害によって、住み慣れた場所を追われた人々の数は世界中で1億人に達したと、2022年に報道されました。またグローバル化の結果、多くの人々が生まれた国を離れ外国で暮らし働いています。

急速に少子高齢化が進む日本でも、不足する労働力を補うために多くの外国人が働いていることは、皆さんも日常の中で気付いていることでしょう。戦争や迫害を逃れてくる外国人に国際社会の一員として保護を与えることも、国内に増え続ける定住外国人と多文化共生社会を作っていくことも、今後、日本が向き合わねばならない重要な課題です。この授業では今後の日本と世界を築いていく皆さんに、難民や移民を理解する上で正確な知識を身に付けてもらい、そのうえでこれらの人々が直面する困難や、受け入れ側の社会として取り組まなくてはならない問題に解決策を考えることを共に行っていきます。

**所属学部**・学年は問いません<sup>(2年生から履修可能)</sup>。また社会科学系の基礎知識も特に必要とはしません。移民や難民をめぐる問題に対しては、受け入れ賛成・受け入れ反対と様々な立場があります。あなたの立場が賛成でも反対でも構いません。現在、移民・難民に関しては不正確で感情的な議論がネット上でもマスコミでも蔓延しています。まずは正確な知識を身に付けて、そのうえで冷静な議論をすることのできる学生の受講を歓迎します。英語力が足りない学生は教員がフォローしますので、積極的に参加してください。

**現実の世界**では難民と移民を明確に分けることが難しくなっていますが、この授業では初学者の理解を促すために、この二つを分けて説明します。現実の難民や移民の姿を知ってもらうために、なるべく多くの視聴覚教材を利用します。またケースシナリオを使って、具体的な状況での解決案を学生と議論します。その中でグループワークも可能な限り取り入れていきます。また、移民や難民にかかわる国際機関やNGOで活躍する職員をゲスト・レクチャーに迎え、現場での体験を共有してもらいます。これまでにフィールド経験豊富な国連機関職員や、日本でウクライナからの避難民支援に奔走するNGO職員にオンラインで講義をしてもらいました。

佐藤滋之（さとうしげゆき）

茨城県生まれ。武庫川女子大学食物栄養科学部准教授。早稲田大学大学院社会科学研究所博士後期課程修了。博士（社会科学）。1997年より国際赤十字赤新月社連盟にて国際人道支援活動に従事し、パプアニューギニア、イラク、ユーゴスラビア、インド等で勤務。2002年より国連難民高等弁務官事務所で難民保護にあたり、ケニア、リベリア、パキスタン、フィリピン、タンザニアでの勤務を経て、スーダン、エチオピアで首席保護官を務める。2020年より現職。専門は国際関係論、難民・移民研究、食糧安全保障。

【主な著書】

『難民を知るための基礎知識——政治と人権の葛藤を越えて』（共著 明石書店 2017年）

『「難民」をどう捉えるか——難民・強制移動研究の理論と方法』（共著 慶應義塾大学出版会 2019年）

『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築——共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（共著 明石書店 2021年）

履修申請についてはR-guideを確認してください